

平成 21 年 5 月 15 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320043
 研究課題名（和文） 王朝文芸の中世・近世における図像的展開をめぐる総合比較研究
 研究課題名（英文） Comparative Studies on Iconographical Development of the Courtly Literature in Medieval and Pre-Modern Periods
 研究代表者
 小嶋 菜温子（KOJIMA NAOKO）
 立教大学・文学部・教授
 研究者番号：50204441

研究成果の概要：本研究では、日本古典文学の基盤をなす、王朝文芸の享受史について、文学史的な観点にとどまらず、美術史的・歴史学的な観点なども視野に収めつつ、ひろく日本文化史を通観した。とくにニューヨーク・パブリック・ライブラリとメトロポリタン美術館およびパーク・コレクション、ダブリンのチェスタービーティアー・ライブラリ、パリ国立図書館など、在外のコレクションに秘蔵されている図像資料の調査研究において大きな成果を得ることができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,700,000	0	5,700,000
2007年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2008年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
年度			
年度			
総計	15,400,000	2,910,000	18,310,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本文化史・日本文学史・近世絵画史・『源氏物語』享受史・海外コレクション調査

1. 研究開始当初の背景

王朝文芸の享受史に関しては、文学史的な観点からの研究が主流であるとともに、中世・近世・近代といった時代区分の枠内での考察が中心となっており、通史的な観点から俯瞰することは困難であった。また美術史学・歴史学などの隣接諸学との連携も深められておらず、開かれた議論が成り立ちにくい状況にあった。

2. 研究の目的

開かれた学際的な研究を目指すとともに、中世・近世・近代を通時的に見渡して、王朝文化の享受史を構築することを目論んだ。ま

た、美術史学・歴史学などの隣接諸学との連携を積極的に図るべく協働体制を敷いた。

3. 研究の方法

王朝文学・中世文学・近世文学の各専門家を軸とするチームを編成するとともに、美術史学の専門家との協働シフトを取りつつ、大学院生の研究協力者を適宜配置することで、円滑な調査・研究活動を行うことができた。また、海外の研究協力者にも美術史的な見地からのサポートを得ることで、万全の体制を敷くことができた。

4. 研究成果

別途報告書を作成したとおり、きわめて充

実した成果を挙げることができた。また本研究の成果をまとめて公刊した『源氏物語と江戸文化』（森話社、2008）も大きな反響を呼び、充実した活動であったことが証明された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 50 件）

- ① 武笠朗、「国民的仏像への道のり」、『芸術新潮』、60、2009年、p. 77～85、査読無
- ② 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その十」、『国文学 解釈と鑑賞』、3月号、2009年、p. 184～189、査読無
- ③ 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その九」、『国文学 解釈と鑑賞』、2月号、2009年、p. 196～201、査読無
- ④ 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その八」、『国文学 解釈と鑑賞』、1月号、2009年、p. 208～212、査読無
- ⑤ 稲本万里子、「『源氏物語絵巻』賢木巻の情景選択に関する一考察」、『尾陽』、4、2008年、p. 41～52、査読無
- ⑥ 小嶋菜温子、「幻の『源氏物語絵巻』覚書一室町期から近世初期の『源氏物語』享受史にみる」、『立教大学大学院日本文学論叢』、8、2008年、p. 5～12、査読無
- ⑦ 小嶋菜温子、「幻の『源氏物語絵巻』をもとめて―パーク本との出会い」、『立教大学大学院日本文学論叢』、8、2008年、p. 2～4、査読無
- ⑧ 小嶋菜温子、「幻の『源氏物語絵巻』、宴の光と影―スパンサー本「帯木」・パーク本「賢木」断簡にみる」、『季刊 iichiko』、100、2008年、p. 65～80、査読無
- ⑨ 小嶋菜温子、「源氏物語のホスピタリティもてなしの文化史―源氏物語の〈みやび〉とホスピタリティ―宴の美酒と苦い酒」、『季刊 iichiko』、100、2008年、p. 60～64、査読無
- ⑩ 小嶋菜温子、「『東アジアの漢文文化圏』雑感―韓国への二五年をふりかえりつつ」、『アジア遊学』、114、2008年、p. 91～97、査読無
- ⑪ 渡辺憲司、「『伊曾保物語』の周辺」、『アジア遊学』、114、2008年、p. 18～28、査読無
- ⑫ 小峯和明、「東アジアの〈東西交流文学〉の可能性―キリシタン・天主教文学を中心に」、『アジア遊学』、114、2008年、p. 6～17、査読無
- ⑬ 小峯和明、「『釈迦の本地』の絵と物語を読む」、『アジア遊学』、109、2008年、p. 32～43、査読無
- ⑭ 小峯和明、「反町目録の再検証―総合目録作成のために」、『立教大学日本学研究所年報』、7、2008年、p. 2～8、査読無
- ⑮ 小峯和明、「『古今著聞集』の絵画論」、『国文学 解釈と鑑賞』、12月号、2008年、p. 49～56、査読無
- ⑯ 渡辺憲司、「吉原のそば屋」、『東京人』、12月号、2008年、p. 84～89、査読無
- ⑰ 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その七」、『国文学 解釈と鑑賞』、12月号、2008年、p. 171～176、査読無
- ⑱ 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その六」、『国文学 解釈と鑑賞』、11月号、2008年、p. 173～177、査読無
- ⑲ 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その五」、『国文学 解釈と鑑賞』、10月号、2008年、p. 187～192、査読無
- ⑳ 渡辺憲司、「江戸東京の鯨物語」、『東京人』、9月号、2008年、p. 92～97、査読無
- 21 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その四」、『国文学 解釈と鑑賞』、9月号、2008年、p. 205～208、査読無
- 22 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その三」、『国文学 解釈と鑑賞』、8月号、2008年、p. 183～186、査読無
- 23 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その二」、『国文学 解釈と鑑賞』、7月号、2008年、p. 176～179、査読無
- 24 小峯和明、「お伽草子異類物の形成と環境―『十二類絵巻』への道」、『文学』、5―6月号、2008年、p. 70～83、査読無
- 25 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』巻第一・名目鈔その一」、『国文学 解釈と鑑賞』、6月号、2008年、p. 181～188、査読無
- 26 渡辺憲司、「『色道大鏡』に見る廊での粹遊里でモテる男のふるまい[含「色道大鏡」二十八品目録]」、『東京人』、5月号、2008年、p. 62～71、査読無
- 27 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』凡例その三」、『国文学 解釈と鑑賞』、5月号、2008年、p. 215～221、査読無
- 28 小嶋菜温子、「制度史・家族史から―『源

- 氏物語』の家と儀礼、伝領をめぐる」、『国文学 解釈と鑑賞』、5月号、2008年、p. 110～117、査読無
- 29 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』凡例その二」、『国文学 解釈と鑑賞』、4月号、2008年、p. 180～187、査読無
- 30 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』凡例その一」、『国文学 解釈と鑑賞』、3月号、2008年、p. 198～203、査読無
- 31 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』叙その二」、『国文学 解釈と鑑賞』、2月号、2008年、p. 195～200、査読無
- 32 渡辺憲司、「『注解 色道大鏡』叙その一」、『国文学 解釈と鑑賞』、1月号、2008年、p. 215～220、査読無
- 33 小峯和明、「古典学の再構築をめざして—平安文学研究の内なる〈他者性〉」、『中古文学』、79、2007年、p. 13～22、査読無
- 34 小峯和明、「東アジアの比較説話学の視界—『新羅殊異伝』を読む」、『アジア遊学』、100、2007年、p. 116～119、査読無
- 35 小峯和明、「『百鬼夜行絵巻』とパロディ」、『アジア文化研究 別冊』、16、2007年、p. 11～19、査読無
- 36 小峯和明、「説話と狂言の表現空間」、『能と狂言』、5、2007年、p. 1～13、査読無
- 37 小嶋菜温子、「『源氏物語』の〈罪〉とホスピタリティー—宴の苦い酒」、『季刊 ichiko』、96、2007年、p. 20～29、査読無
- 38 渡辺憲司、「神田から日本橋、浅草へ 戯作者をめぐる町歩き」、『東京人』、12月号、2007年、p. 44～51、査読無
- 39 小峯和明、「説話と説話文学の本質—東アジアの比較説話学へ」、『国文学 解釈と鑑賞』、8月号、2007年、p. 116～119、査読無
- 40 渡辺憲司、「お局さまの墓めぐり」、『東京人』、8月号、2007年、p. 50～57、査読無
- 41 渡辺憲司、「『清水物語 上巻』学問論の周辺」、『文学』、5—6月号、2007年、p. 88～93、査読無
- 42 渡辺憲司、「吉原三百四十年の光と影」、『東京人』、3月号、2007年、p. 24～29、査読無
- 43 武笠朗、「蓮華王院長寛造像の研究（一）—創建の経緯と造立仏師の検討—」、『美学美術史学』、21、2007年、p. 27～48、査読無
- 44 武笠朗、「西光寺藏 薬師如来坐像」、『国華』、111、2006年、p. 1～15、査読無
- 45 渡辺憲司、「救済者としての遊女」、『国文学』、12月号、2006年、p. 166～174、査読無
- 46 渡辺憲司、「遊女の教養」、『歴史に好奇心（NHK知るを楽しむ）』、10・11月号、2006年、p. 1～6、査読無
- 47 小嶋菜温子、「『蜻蛉日記』初瀬詣での「鯉」と「雉」—〈産む性〉に賭ける旅」、『国文学』、7月号、2006年、p. 32～40、査読無
- 48 小峯和明、「スペンサー本『百鬼夜行絵巻』と幕末の『平家物語』—冷泉為恭と遷都の物語」、『文学』、5—6月号、2006年、p. 109～123、査読無
- 49 渡辺憲司、「女護の島—『好色一代男』『伽婢子』を中心に」、『国文学』、5月号、2006年、p. 141～149、査読無
- 50 小嶋菜温子、「六条院と物の怪—「六条の古宮」の〈家〉と〈血〉」、『国文学 解釈と鑑賞』、5月号、2006年、p. 71～79、査読無
- [学会発表] (計 15 件)
- ① 小嶋菜温子、「近世初期の『源氏物語』享受」、立教大学日本学研究所、2008年7月12日、立教大学
- ② 小嶋菜温子・稲本万里子「幻の「源氏物語絵巻」をもとめて」、物語研究会、2008年6月21日、立教大学
- ③ 小嶋菜温子、「かぐや姫と帝—CBL蔵・立教大学蔵などの絵本・絵巻から」、奈良絵本・絵巻国際会議、2008年3月23日、チェスター・ビーツィ・ライブラリ
- ④ 小峯和明、「南方熊楠の説話研究」、南方熊楠フォーラム、2007年11月11日、梅窓院
- ⑤ 小峯和明、「東アジアの東西交流文学の可能性—キリシタン・天主教を中心に」、国際シンポジウム「東アジアの日本文学研究」、2007年11月2日、韓国外国語大学
- ⑥ 渡辺憲司、「『伊曾保物語』と江戸時代の文学」、国際シンポジウム「東アジアの日本文学研究」、2007年11月2日、韓国外国語大学
- ⑦ 小峯和明、「東アジアの伝説をたどる」、国際シンポジウム「東アジアと日本文学」、2007年9月15日、中国山東大学
- ⑧ 小嶋菜温子、「『伊勢』『竹取』にみる富士山のイメージ」、国際シンポジウム「伊勢物語の変容—テキストとイメージ」、2007年8月21日、ブリティッシュコロンビア大学
- ⑨ 小峯和明、「写す身体と見る身体」、アジア研究国際会議 (ASCJ)、2007年6月23日、明治学院大学
- ⑩ 小嶋菜温子、「王朝文学にみる女と子ども」、アジア研究国際会議 (ASCJ)、20

- 07年6月23日、明治学院大学
- ⑪ 小峯和明、「見える鬼と見えない鬼」、国際シンポジウム「見えるものと見えないもの」、2007年5月19日、ロンドン大学
- ⑫ 小峯和明、「釈迦の本地の絵と物語を読む」、国際シンポジウム「文字を見る・絵を読む」、2007年4月28日、日仏会館
- ⑬ 稲本万里子、「パーク・コレクション「源氏物語絵巻」賢木巻について」、国際会議「源氏物語の文化史—宗教・芸能・美術」、2007年3月12日、パリ東洋言語文化研究所
- ⑭ 小峯和明、「法会文芸としての源氏供養—表白から物語へ」、国際会議「源氏物語の文化史—宗教・芸能・美術」、2007年3月12日、パリ東洋言語文化研究所
- ⑮ 稲本万里子、「源氏物語絵巻」の解釈をめぐって—文学研究と美術史研究の共同に向けて」、立教大学日本文学科創設50周年記念国際シンポジウム、2006年11月3日、立教大学

[図書] (計 35 件)

- ① 田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩執筆、東京美術、『すぐわかる源氏物語の絵画』、2009年、p. 151
- ② 武笠朗監修、しなのき書房、『定本 信州の仏像』、2008年、p. 288
- ③ 小峯和明、ハルオ・シラネ、渡辺憲司編、至文堂、『文学に描かれた日本の「食」のすがた：古代から江戸時代まで』（「国文学解釈と鑑賞」別冊）、2008年、p. 305
- ④ 小峯和明、吉川弘文館、『今昔物語集を読む』、2008年、p. 284
- ⑤ 小島孝之・小峯和明・小林真由美、吉川弘文館、『三宝絵を読む』、2008年、p. 314
- ⑥ 名和修監修、狩野博幸・小林保治・小峯和明解題、勉誠出版、『陽明文庫蔵 重要美術品 宇治拾遺物語絵巻』、2008年、p. 120
- ⑦ 小嶋菜温子・渡部泰明編、青簡舎、『源氏物語と和歌』、2008年、p. 453
- ⑧ 小嶋菜温子・渡辺雅子・保立道久ほか、勉誠出版、『チェスター・ビーティー・ライブラリ所蔵 竹取物語絵巻』、2008年、p. 180
- ⑨ 小嶋菜温子・小峯和明・渡辺憲司編、森話社、『源氏物語と江戸文化 可視化される雅俗』、2008年、p. 427
- ⑩ 藤巻明・浦野聡・小嶋菜温子編、春風社、『肖像と個性』（立教大学人文叢書3）、2008年、p. 259
- ⑪ 稲本万里子、おうふう、『源氏物語と美術

- の世界』（講座源氏物語研究第十巻）、2008年、p. 42～63
- ⑫ 稲本万里子、森話社、『源氏物語と江戸文化 可視化される雅俗』、2008年、p. 43～64
- ⑬ 武笠朗、森話社、『源氏物語と江戸文化 可視化される雅俗』、2008年、p. 191～208
- ⑭ 武笠朗、中央公論美術出版、『日本彫刻史 基礎資料集成 鎌倉時代造像銘記篇六』、2008年、p. 27～33
- ⑮ 小峯和明、三弥井書店、『つたえる』、2008年、p. 179～188
- ⑯ 小峯和明、春風社、『肖像と個性』（立教大学人文叢書3）、2008年、p. 73～86
- ⑰ 稲本万里子・池上英洋編著、ブリュッケ、『イメージとテキスト—美術史を学ぶための13章』、2007年、p. 312
- ⑱ 小峯和明、岩波書店、『中世日本の予言書』、2007年、p. 225
- ⑲ 加藤睦・小嶋菜温子編、世界思想社、『源氏物語と和歌を学ぶ人のために』、2007年、p. 346
- ⑳ 小嶋菜温子、宝島社、『えんぴつで脳を鍛える竹取物語』、2007年、p. 118
- 21 小嶋菜温子編、竹林舎、『王朝文学と通過儀礼』（平安文学と隣接諸学3）、2007年、p. 597
- 22 稲本万里子、竹林舎、『王朝文学と通過儀礼』（平安文学と隣接諸学3）、2007年、p. 55～73
- 23 武笠朗、ブリュッケ、『イメージとテキスト—美術史を学ぶための13章』、2007年、p. 21～49
- 24 小峯和明、サントリー美術館、『鳥獣戯画がやってきた』、2007年、p. 150～151
- 25 小峯和明、世界思想社、『源氏物語と和歌を学ぶ人のために』、2007年、p. 239～256
- 26 小嶋菜温子、森話社、『女と子どもの王朝史—後宮・儀礼・縁』、2007年、p. 293～313
- 27 小嶋菜温子、竹林舎、『王朝文学と仏教・神道・陰陽道』（平安文学と隣接諸学2）、2007年、p. 127～137
- 28 小嶋菜温子、笠間書院、『源氏物語へ 源氏物語から』2007年、p. 91～109
- 29 小嶋菜温子、おうふう、『現代文化と源氏物語』（講座源氏物語研究第九巻）、2007年、p. 62～79
- 30 稲本万里子、翰林書房、『女三宮再考』、『描かれた源氏物語』、2006年、p. 56～61
- 31 小峯和明、笠間書院、『中世文学研究は日

- 本文化を解明できるか』、2006年、p. 80～84
- 32 小峯和明、三弥井書店、『魅力の奈良絵本・絵巻』、2006年、p. 99～125
- 33 渡辺憲司、八木書店、『新版色道大鏡』、2006年、p. 19～36
- 34 小嶋菜温子、おうふう、『日本語日本文学の新たな視座』、2006年、p. 131～139
- 35 小嶋菜温子、竹林舎、『源氏物語の始発一桐壺巻論集』、2006年、p. 121～139

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小嶋 菜温子 (KOJIMA NAOKO)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：50204441

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

渡辺 憲司 (WATANABE KENJI)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：00123761

小峯 和明 (KOMINE KAZUAKI)
立教大学・文学部・教授
研究者番号：70127827

武笠 朗 (MUKASA AKIRA)
実践女子大学・文学部・教授
研究者番号：30219844

稲本 万里子 (INAMOTO MARIKO)
恵泉女学園大学・人文学部・教授
研究者番号：20240749